New Challenge Best Quality

株式会社 大阪チタニウムテクノロジーズ

2025年度　上期決算説明会

2025年11月28日

01 **2025年度　上期決算実績**

02 2025年度　通期業績見通し

03 中期経営課題とその対応

01. 2025年度 上期決算実績(事業状況)

【全社概況】

- ✓ 航空機需要が成長軌道となっていることや世界的なチタンのサプライチェーン再編の影響が継続しており、スポンジチタンの需要は堅調に推移
- ✓ 一般産業用途向けは中国経済の低迷等を受け取引先や最終需要家で在庫調整が継続、原燃料の価格はピークアウトするが、人件費の上昇や物価高騰によるインフレの問題も継続
- ✓ 上記環境の下、輸出向け販売価格の低下や国内需要低迷による数量減少はあったものの、輸出向け数量が堅調に推移したことや円安効果により

2025年度上期の業績は**売上高269億円**、 **営業利益40億円**、 **純利益25億円**

【事業セグメント別概況】

チタン事業

- スポンジチタンの輸出向け売上高は**前年同期比26%増加**、国内向け売上高は**前年同期比58%減少**
- 国内向け数量減に伴う減産やインフレ等のコスト悪化により営業利益は**前年同期比41%減少**

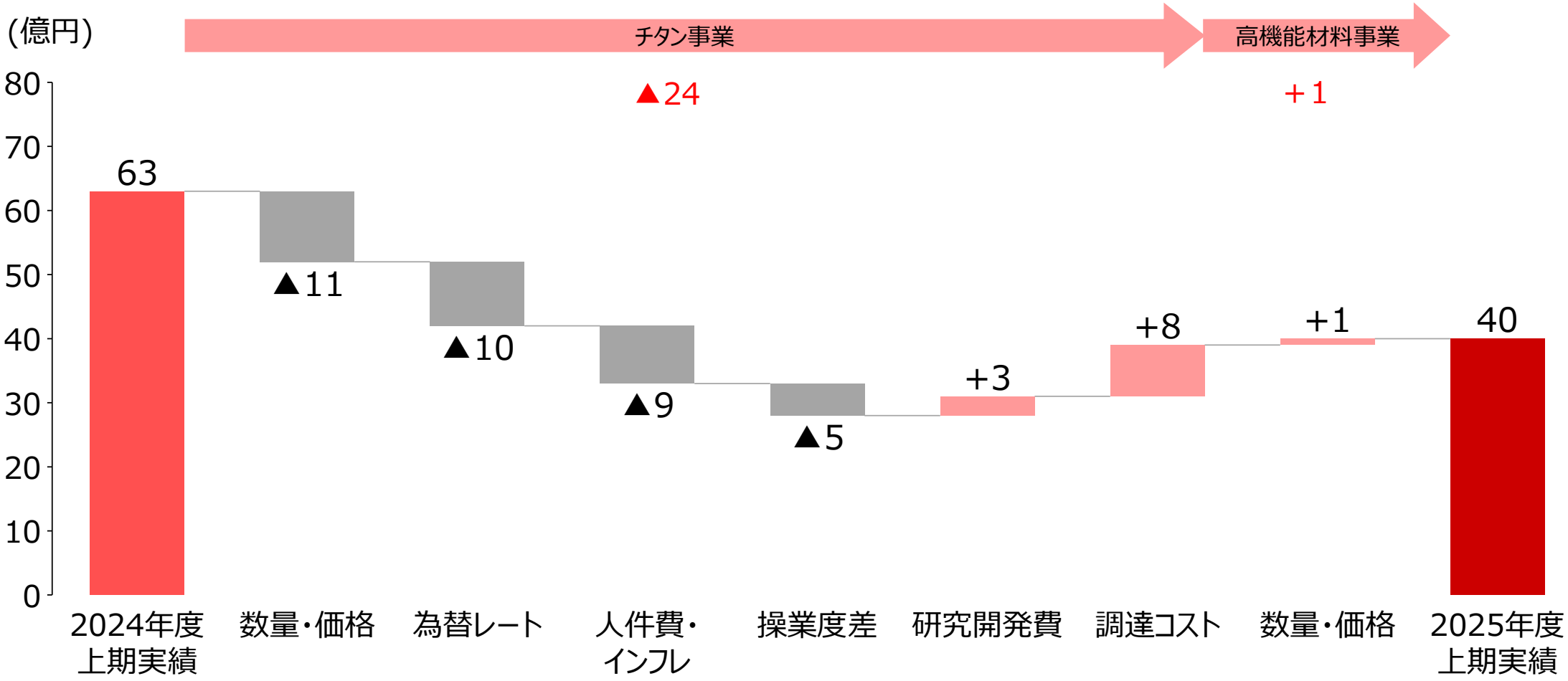
高機能材料事業

- 半導体市場における調整局面は継続しており、半導体関連のスパッタリングターゲット用高純度チタンの販売数量が減少、売上高は**前年同期比8%減少**。TILOP等その他製品での構成改善効果があり営業利益は**前年同期比6%増加**。

01. 2025年度　上期決算実績(業績概要)

(金額：億円)	2024年度 上期実績	2024年度 下期実績	2025年度 上期実績	前年同期比
売上高	262	257	269	+7
営業利益	63	38	40	▲23
経常利益	50	41	42	▲8
税引前利益	48	31	36	▲12
当期純利益	35	36	25	▲10
為替レート(円/$)	(153.9)	(151.6)	(146.2)	—
(期末日レート)	(142.8)	(149.5)	(148.8)	—

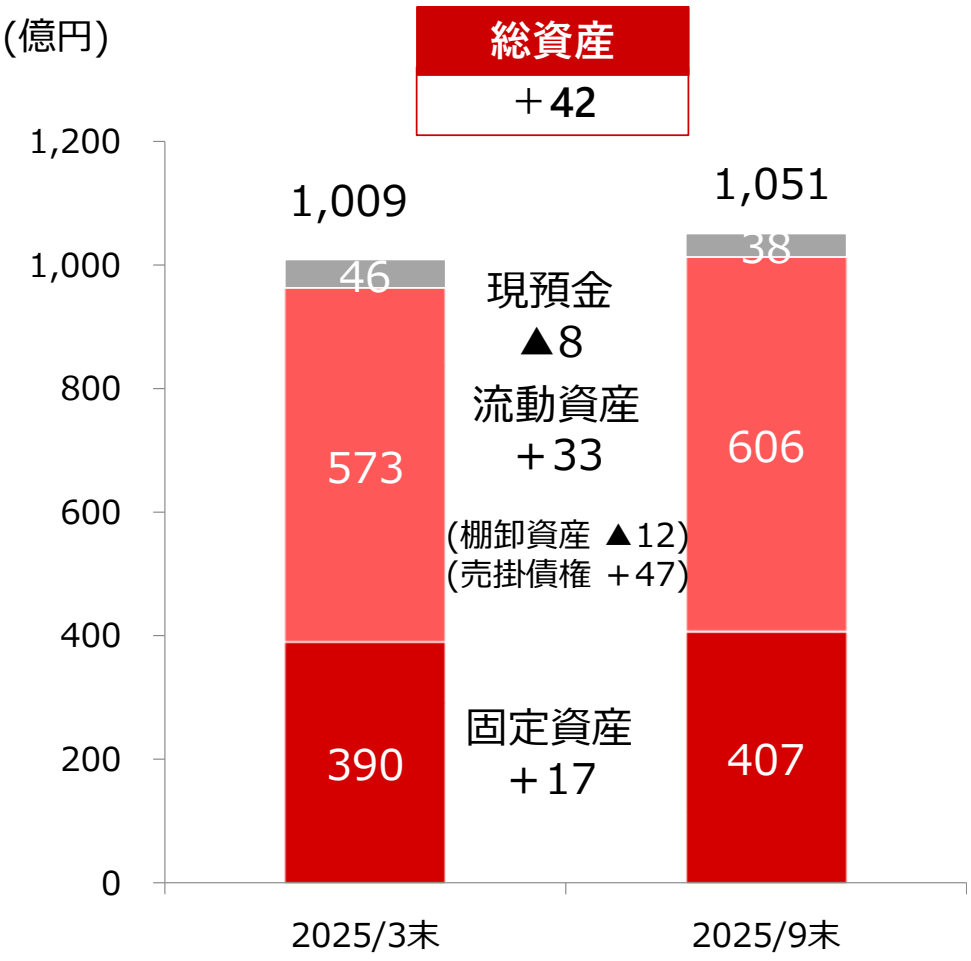
01. 2025年度 上期決算実績(営業利益増減内訳 対2024年度上期実績)

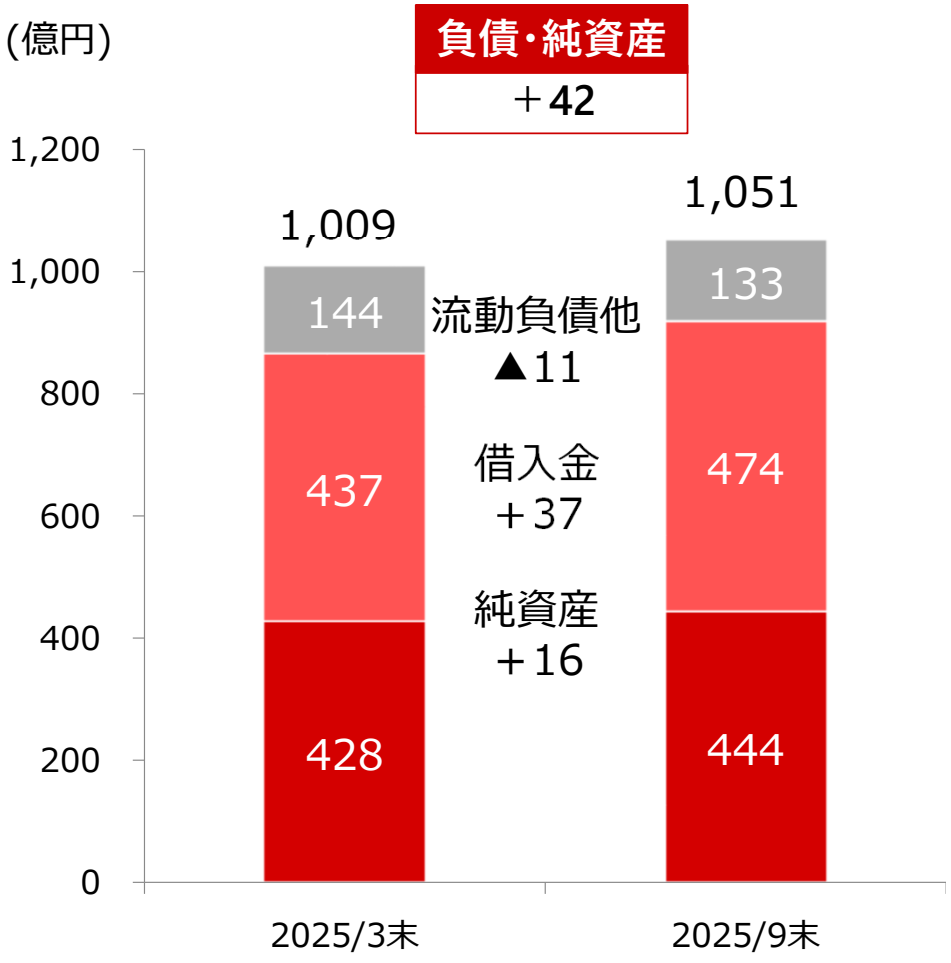


01. 2025年度　上期決算実績(事業セグメント別業績)

(金額：億円)		2024年度 上期実績		2024年度 下期実績		2025年度 上期実績		前年同期比	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
チタン事業	国内	58	57	65	33	25	33	▲33	▲24
	輸出	168		161		211		43	
	計	226	57	226	33	236	33	+10	▲24
高機能材料事業		36	6	31	5	33	7	▲3	+1
合計		262	63	257	38	269	40	+7	▲23

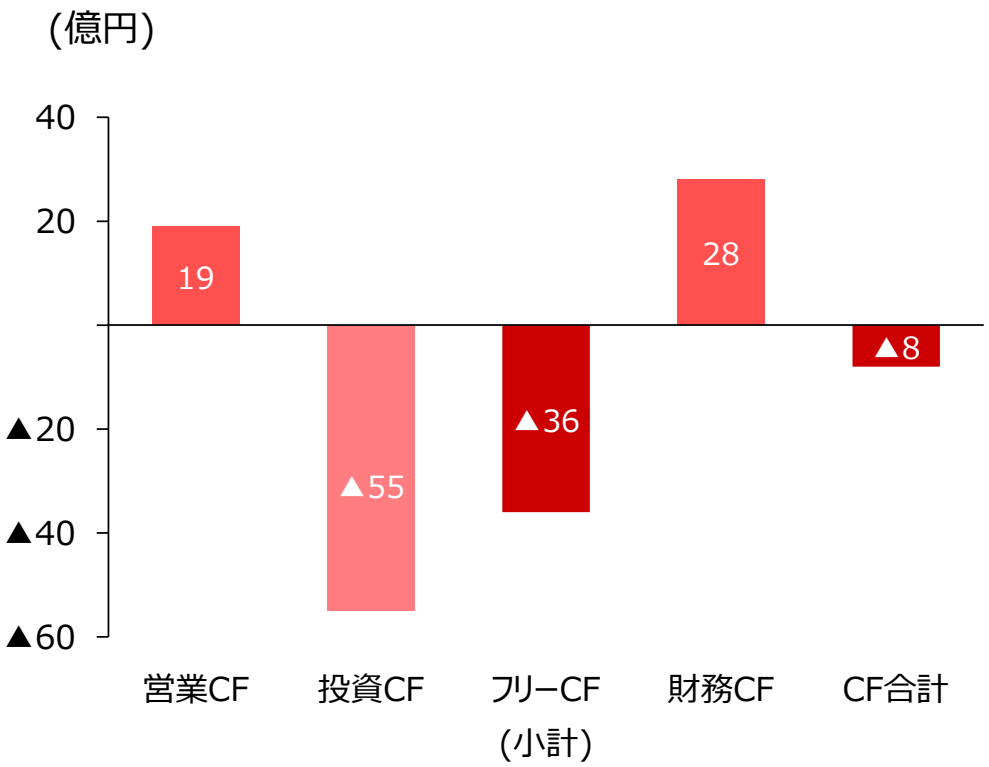
01. 2025年度 上期決算実績(B/S 対2025年3月末)

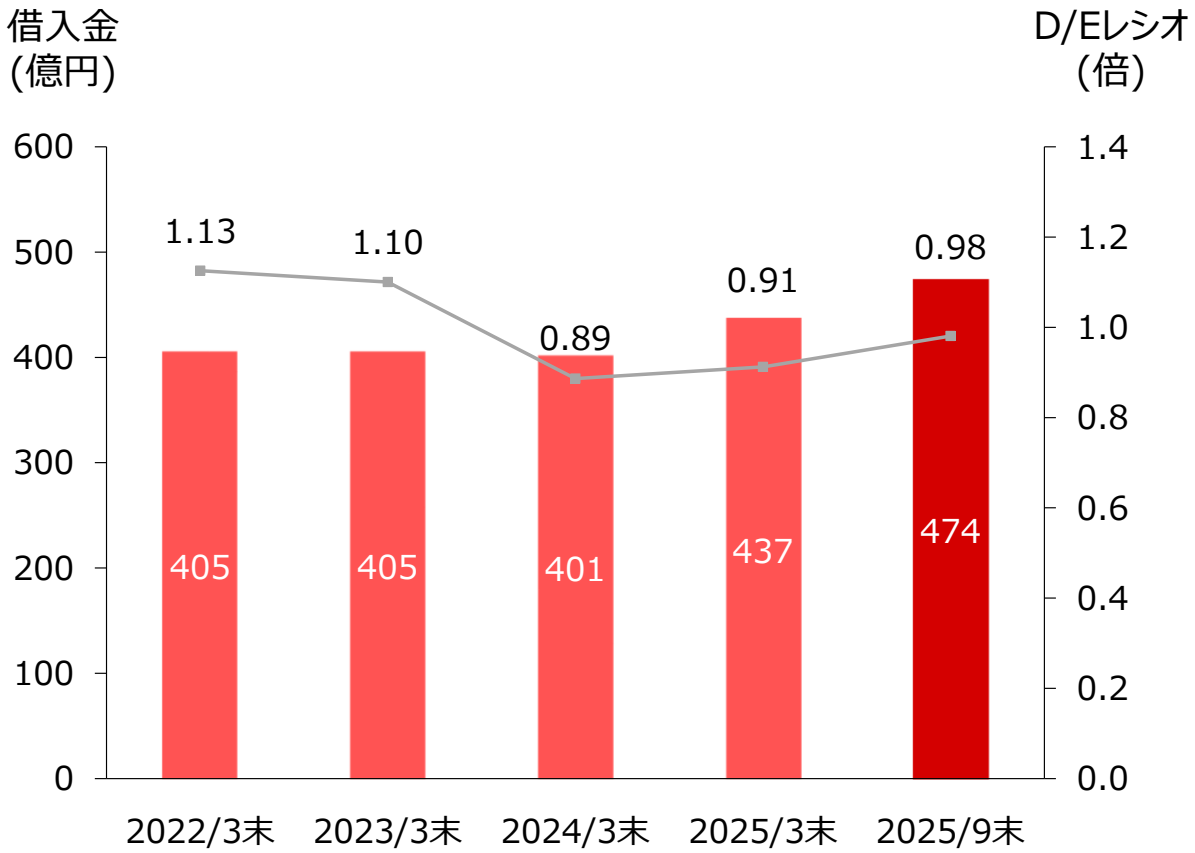




自己資本比率 42.4% 42.3%

01. 2025年度 上期決算実績(キャッシュフローとD/Eレシオ)





01 2025年度　上期決算実績

02 2025年度　通期業績見通し

03 中期経営課題とその対応

02. 2025年度 通期業績見通し(事業セグメント別状況)

チタン事業

取り巻く環境

- 民間航空機需要は中長期的に堅調な成長が見込め、民間航空機向けチタン需要についても各航空機メーカーが民間航空機の製造機数を段階的に高める計画であることやエンジン向けには新規需要に加えてMRO需要が増加していることから持続的な成長が見込まれる
- 一方で足元では航空機サプライチェーン内における在庫調整により、一時的にチタン実需は鈍化
- 一般産業向けチタン需要は、中国経済の低迷等の影響を受け引き続き低迷
- 原燃料価格はピークアウトするものの資機材価格や人件費は年々上昇し収益を圧迫

主な取り組み

- スポンジチタンの工場稼働率は販売数量見合いの水準
  (稼働率：上期実績約8割、下期計画も継続)
  但し、今後の販売数量増加に備え、人員確保も含め即時にフル稼働ができる状態を維持
- 事業継続可能な収益性を確保するため、各工程の自動化や生産効率の向上を含め徹底したコスト削減に取り組むと共に販売価格の適正化を継続
- チタン生産能力増強投資は事前工事も含め順調に進捗

02. 2025年度 通期業績見通し(事業セグメント別状況)

高機能材料事業

取り巻く環境

- 半導体及び積層セラミックコンデンサ(MLCC)等のデジタル市場は依然として調整局面にあり、AI等一部用途では回復がみられるもののスマートフォン・PC・EV関連製品の需要は停滞
- 欧米を中心に積層造形市場は段階的に成長している一方、チタン合金粉末は、既に需要拡大している医療分野では競合の積極拡販等により競争環境が激化するとともに、今後需要が見込まれる航空宇宙分野の市場形成、拡大に遅れ

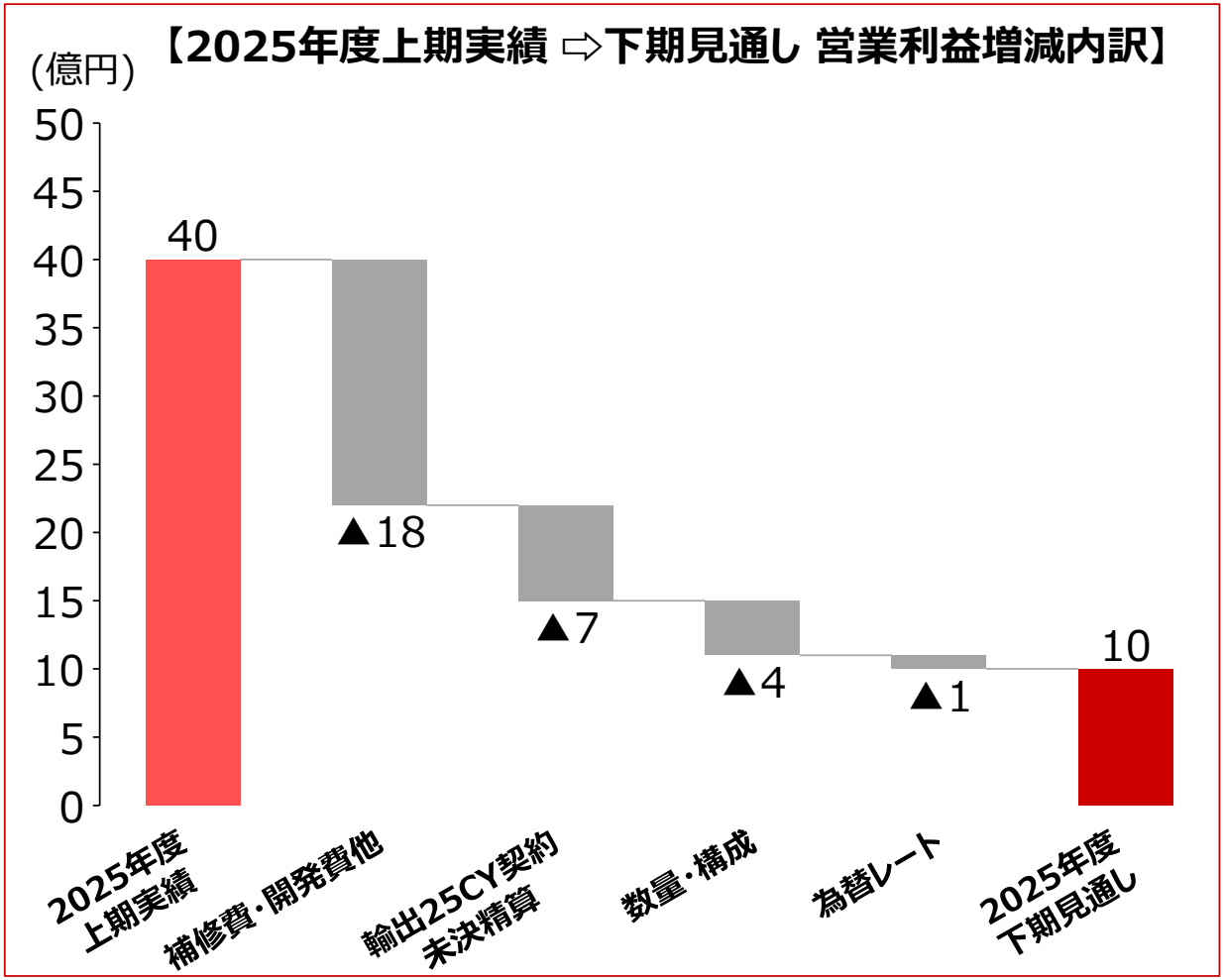
主な取り組み

- 半導体分野において高品質戦略製品を武器に、高純度チタン製品のシェアを維持、拡大
- 積層セラミックコンデンサ(MLCC)向け需要の着実な捕捉による高純度四塩化チタン製品の拡販
- チタン事業で培ったノウハウを活かし航空宇宙分野に特化した合金TILOP事業の成長を追求
- オープンイノベーションの推進等、更なる新規事業の創出と萌芽に継続して取り組む

02. 2025年度 通期業績見通し(業績概要)

(金額：億円)	2024年度通期実績	2025年度見通し 上期(実績)	2025年度見通し 下期	2025年度見通し 通期	2024年→2025年 通期差異	前回 公表値	前回対比 通期差異
売上高	519	269	221	490	▲29	520	▲30
営業利益	101	40	10	50	▲51	45	＋5
経常利益	91	42	6	48	▲43	42	＋6
税引前利益	79	36	▲5	31	▲48	28	＋3
当期純利益	71	25	▲3	22	▲49	20	＋2
為替レート(円/$)	(152.7)	(146.2)	(145.0)	(145.6)	—	(145.1)	—
(期末日レート)	(149.5)	(148.8)	(145.0)	(145.0)	—	(145.0)	—

02. 2025年度 通期業績見通し(営業利益増減内訳)

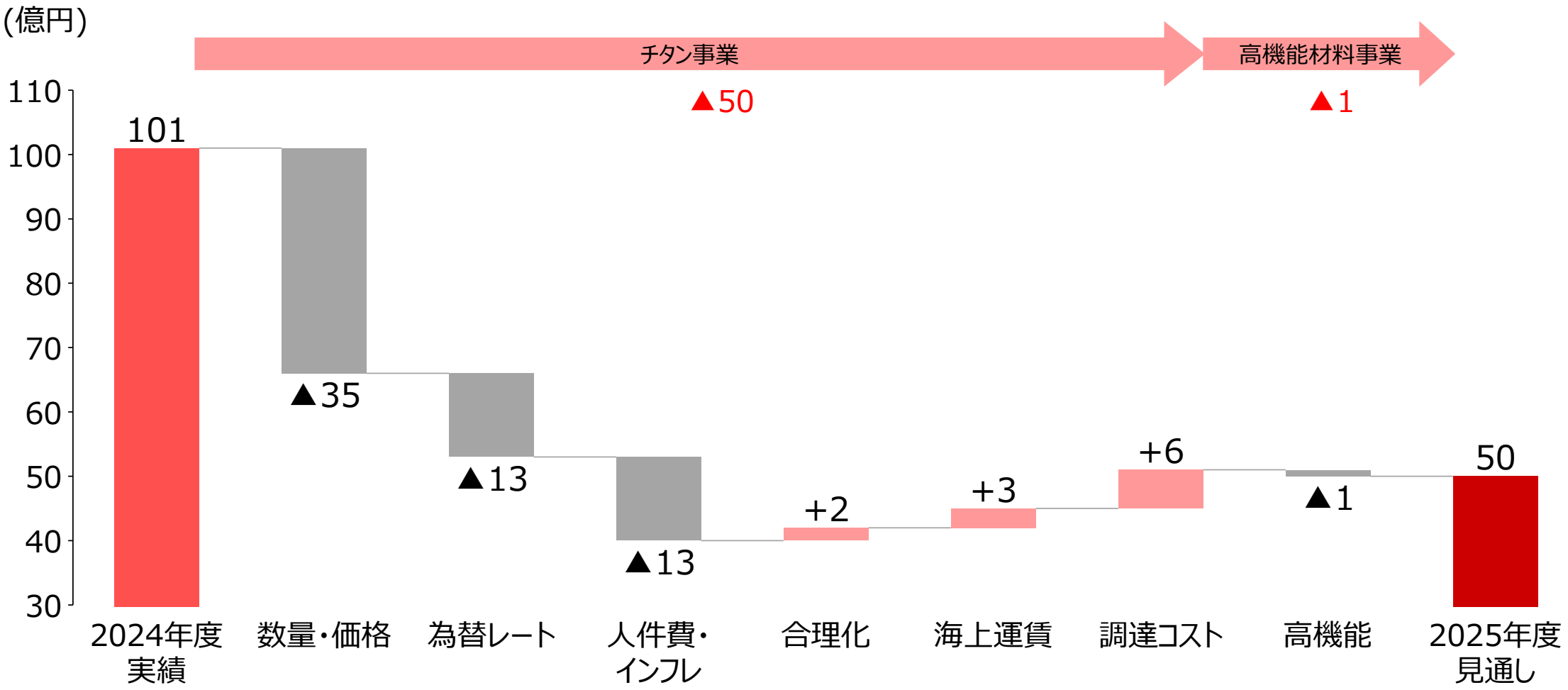


（参考）
【前回８月公表見通し ⇨ 今回公表見通し 】

売上高　▲30億円（520→490億円）
営業利益　+5億円（ 45→ 50億円）

営業利益増減内訳
- 為替レート　：+2億円
- 数量・構成　：▲3億円
- ｴﾈﾙｷﾞｰ調達コスト　：+2億円
- 海上運賃他　：+4億円

02. 2025年度 通期業績見通し(営業利益増減内訳 対2024年度実績)



02. 2025年度 通期業績見通し(事業セグメント別業績)

(金額：億円)		2024年度 通期実績		2025年度 通期見通し		通期差異	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
チタン事業	国内	123	90	68	40	▲55	▲50
	輸出	329		354		＋25	
	計	452	90	422	40	▲30	▲50
高機能材料事業		67	11	68	10	＋1	▲1
合計		519	101	490	50	▲29	▲51

02. 2025年度 通期業績見通し(配当について)

株主還元方針

安定性に配慮しつつ25～35%の配当性向を目安とする。

	2025/3月期		2026/3月期	前回公表
中間	25円/株		5円/株	5円/株
期末	25円/株	※	(10円/株)	10円/株
年間	50円/株		15円/株	15円/株

※今後の業績動向を踏まえて判断いたします。

01 2025年度　上期決算実績

02 2025年度　通期業績見通し

03 **中期経営課題とその対応**

03. 中期経営課題とその対応(課題と基本方針)

中期経営課題と基本方針

＜チタン事業＞

１．**生産能力増強と収益構造の強化によるチタン事業の持続的成長**

＜高機能材料事業＞

２．新規事業の開拓を含む高機能材料事業の拡大による事業ポートフォリオ変革の促進

＜全社共通＞

３．人的資本の強化とフル活用のための環境整備

４．データサイエンス等を駆使したスマートファクトリー化によるDXの更なる推進

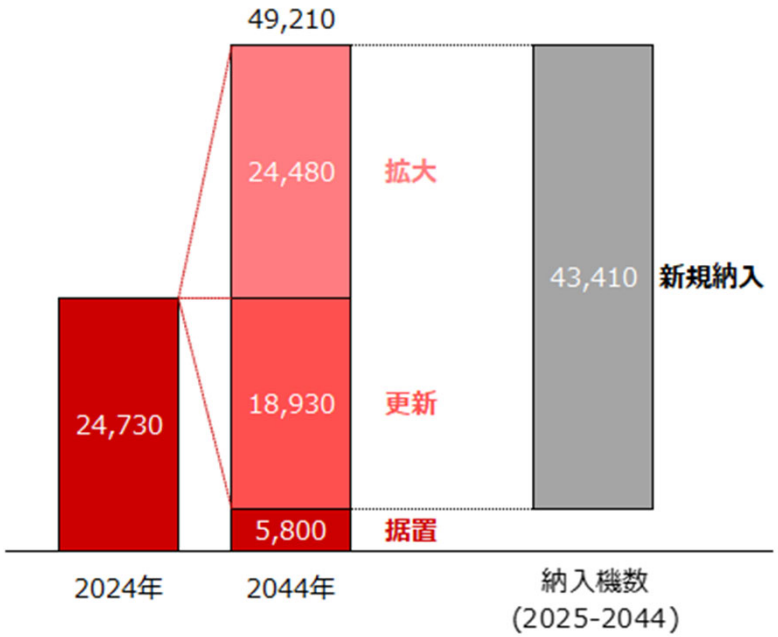
５．財務体質の健全化による安定成長基盤の構築

６．カーボンニュートラル対応をはじめ環境負荷低減に向けた多面的な活動の推進

03. 中期経営課題とその対応(民間航空機の動向)

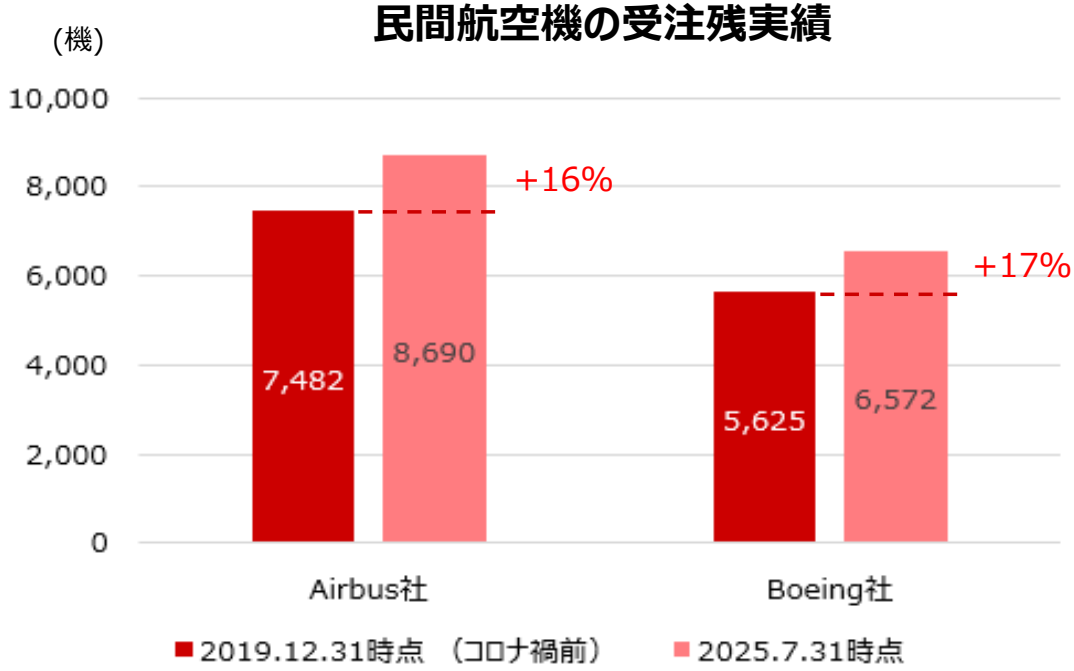
- ✓ 民間航空機の運航機数は2024年から20年後の2044年までに倍増する見通し
  そのうち新たに必要とされる機数は2025年から2044年の20年間で約43千機
- ✓ また民間航空機の受注残はコロナ禍前以上に増加、今後も民間航空機需要は更なる成長が見込まれる

民間航空機の運航機数予測



(Airbus公表資料を基に当社推定)

民間航空機の受注残実績

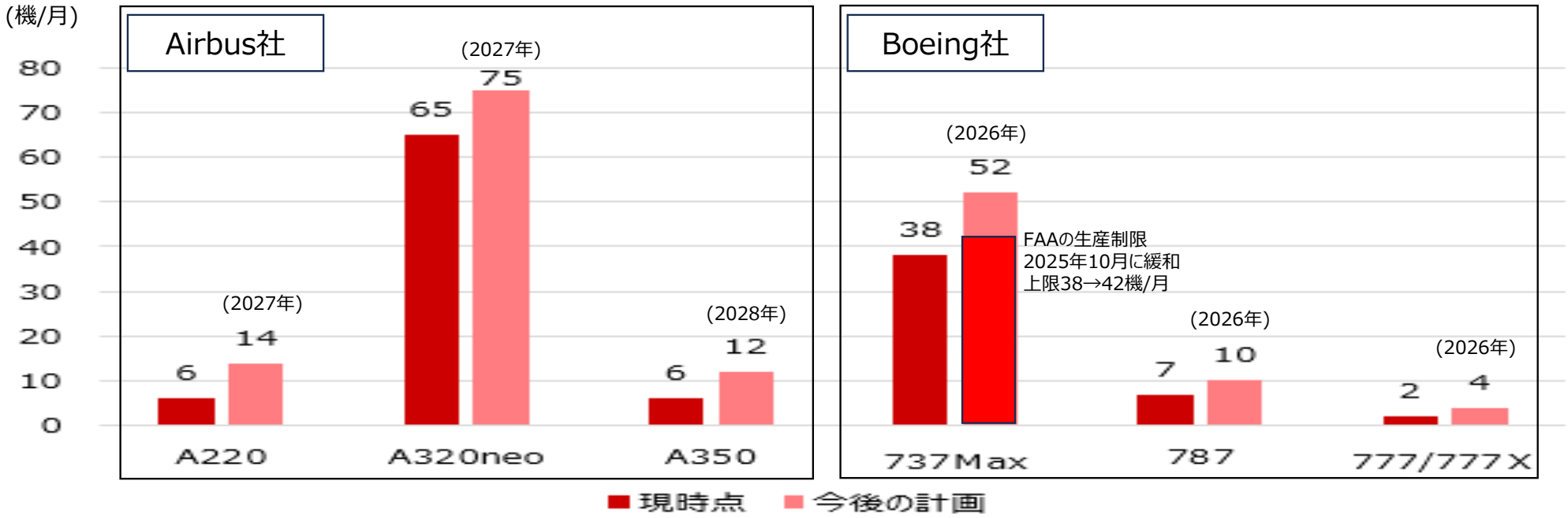


(大手航空機メーカーの発表資料を基に当社作成)

03. 中期経営課題とその対応(民間航空機の動向)

✓ 民間航空機の生産機数は、今後、Airbus社におけるエンジン不足等のサプライチェーン上の課題解決、Boeing社におけるストライキの影響による減産からの回復及び品質トラブルの解消によるアメリカ連邦航空局（FAA）からの生産機数の制限解除に伴い、今後更なる増産が見込まれる

欧米の民間航空機生産機数見通し

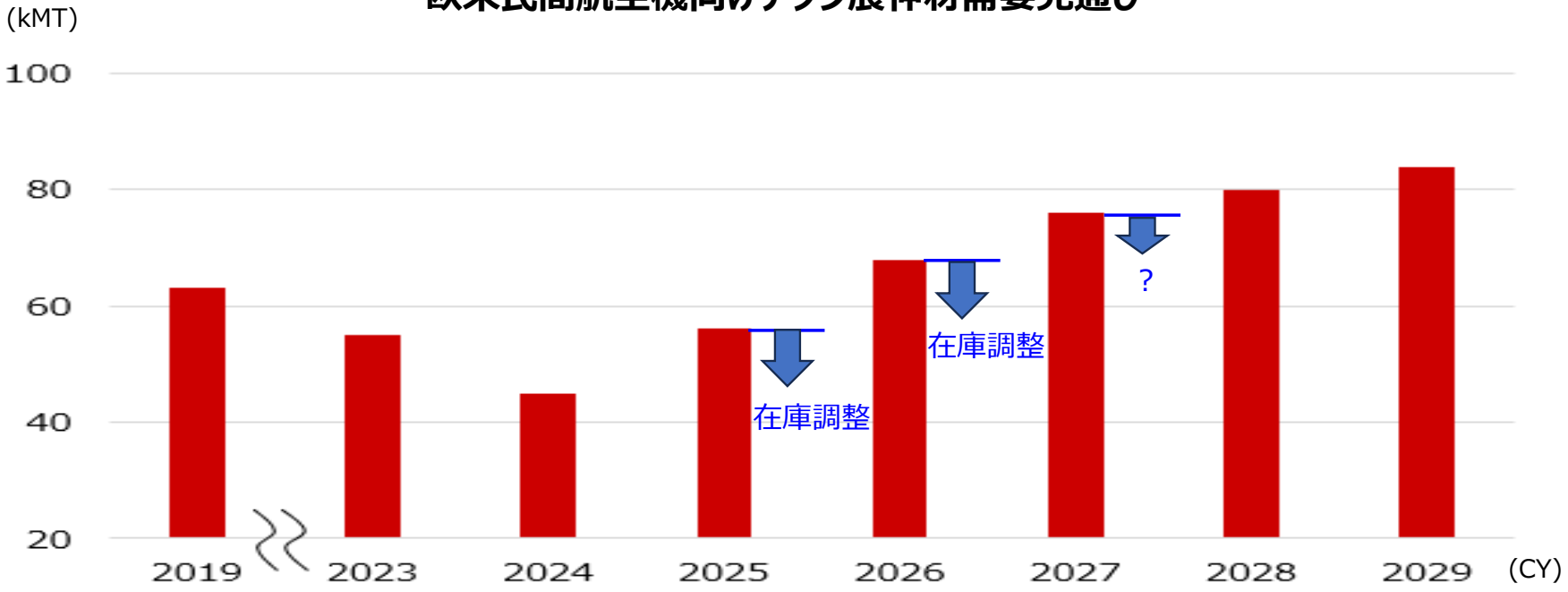


（大手航空機メーカーの発表を基に当社推定）

03. 中期経営課題とその対応(民間航空機向けチタン展伸材需要)

- ✓ 民間航空機向けチタン需要は、エンジン向けMRO需要が増加すること及び民間航空機の生産機数が堅調に推移すること等により継続的な成長が見込まれる
- ✓ 一方足元ではBoeing社の品質問題やストライキ、Airbus社のエンジン供給不足問題等の影響により、サプライチェーン内における在庫調整局面へ

欧米民間航空機向けチタン展伸材需要見通し



（大手航空機メーカーの生産機数を基に当社推定）

03. 中期経営課題とその対応(成長戦略の取り組み)

✓ チタン事業の成長戦略

昨年意思決定したチタン生産能力増強設備を2028年度から戦力化し、今後伸長するチタン需要を着実に捕捉することで、当社の持続的な成長を追求するとともに、チタンの安定供給を通して国際貢献を果たしていく

＜能力増強の概要＞

生産能力増強規模	：現行）4万トン/年 → 増強後）5万トン/年（+1万トン）
投資額	：約330億円
助成金の額	：約80億円（※NEDOの安定供給確保支援基金事業費助成金）
完工	：2027年度末迄の完工を目標とする

事前工事や工場内のレイアウト変更は無事完了、来年度から新工場建設に移行予定

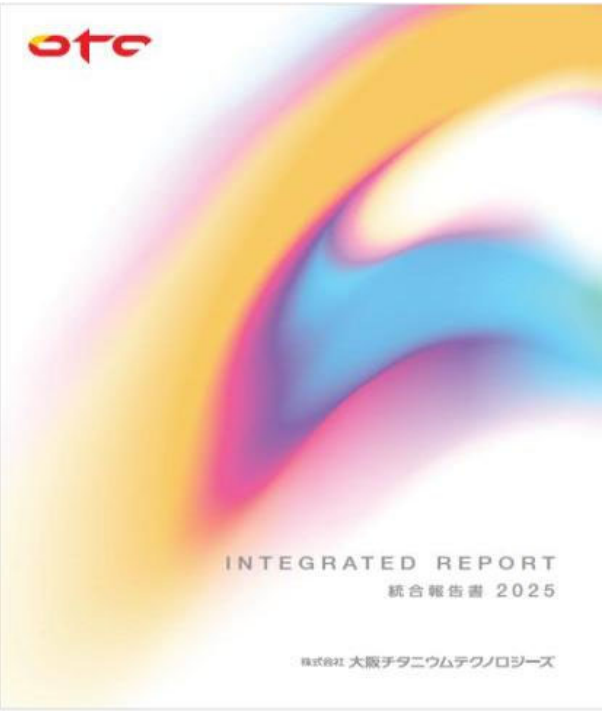
✓ 中期経営計画（来年度公表予定）

チタン事業の持続的成長と高機能材料事業の拡大による事業ポートフォリオの変革を柱とした2026年度起こしの中期経営計画を作成しております。

03. 中期経営課題とその対応(ＩＲ活動の取り組み)

✓ 統合報告書（2025年12月公開予定）

中期経営課題の取組み状況を取り纏め
「統合報告書」を作成しております。



✓ 個人投資家向け会社説明会

2025年10月17日に個人投資家を対象とした会社説明会を実施しました。
アーカイブ映像は以下で視聴できます。
https://webcast.net-ir.ne.jp/57262510/index.html

終了

本資料は金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また本資料に記載された将来の予測等は説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、不確定要素を含んでおります。このため様々な要因により実際に生じる結果が予測内容と異なる可能性があることをご承知ください。本資料利用によって生じるいかなる結果につきましても、当社が責任を負うものではありません。